

絵本とともに



小野崎洋子

う。どうしい梅雨空の続く七月。なにか爽快さを求めてくなるような心境にかられる。園児たちは、今日も元気に登園してくれるかな、そんな気持ちでハンドルを握り、出勤する。

園児たちは、梅雨空もなんのその、元気に囲りにかけよってきて、

「先生、花持つてきたよ」

と、人々に話しかける。私もいつの間

にか、園児たちに誘われるよう、会話の中へつて、ふ。〔二三、園里〕

ちとの葛藤の始まりでもある一日のスタートでもある。

私の勧説している太田幼稚園では、二年前、地区有志の方々の寄附により園文庫が設立された。当初は二百冊あ

「もう一冊読んで」
の足りなくて、一冊読み終わると、
子が絵本に興味を示すようになった。
ぐら毎日読み聞かせてきた絵本も、六月
り集団生活に慣れ、日増しに活発にな
った。絵本の読み聞かせを実践して、今
年で三年目になるが、園児の絵本への
興味と関心は、高まるばかりである。
入園して四か月、園児たちもすっか
り、教師の机の上にそっと置いておく
つてくる園児。自分が読んでほしい本
を、先生、今日は、これ読んでね」とい
うなりながらやさん。また、一冊ではも
うりだった絵本も、以来すこしづつ買
い足し、今では三百五十冊ほどになっ
た。絵本の読み聞かせを実践して、今
年で三年目になるが、園児の絵本への
興味と関心は、高まるばかりである。

と必ず催促する子。私も時間のある限り読んであげることにしている毎日である。

最初に読み聞かせた絵本で、「はけたよ、はけたよ」は、特に興味を示して七月現在五回も読んであげたが、くり返すごとに興味を増していくようだ。たづくんが「どでん」としりもちを

つく場面では、一斉に声を出し、喜び合うところは、ほんとうに絵本のおもしろさを満喫するところである。

に

いま

のあり

三 び の

遊

卷之三



遊びのあいまに

と、園児たちの想像の世界は、実際に楽しく夢がある。

「今日は雨だから、織り姫と彦星は、会えなくてかわいそうだね」「ぼくの作ったロケットで宇宙へとべるかな」と、園児たちの想像の世界は、実際に楽しく夢がある。

絵本の読み聞かせの一冊一冊が園児の血となり、肉となつて、聞く力、話す力、集中力、情緒、知識が高まり、今後の生活の基盤となることを念じつゝ、実践を継続していきたい。

(東和町立太田幼稚園教諭)